

# 着任のご挨拶



ヒューストン日本語補習校  
校長 岡林 健児

4月7日、ヒューストンの地に立ちました。空から見たヒューストンは、どこまでも地平線が続き、その広大な光景に圧倒されました。空港では運営委員の松崎文吾様の温かいお出迎えを受け、新天地での不安が払拭される思いでした。ヒューストン日本語補習校第16代校長として着任しました岡林健児(おかばやしけんじ)と申します。3月末まで、山梨県

甲府市の公立中学校の校長として勤務していました。甲府市は山梨県の中央部に位置し、南に富士山、西に南アルプス連峰、北に八ヶ岳連峰を仰ぎ見ることができる風光明媚な町です。海のない山梨県ですが、3,776mの高さを誇る富士山をはじめとして、豊富な自然や美しい水に支えられた農産業や工業など様々な日本一があり、天然水、ぶどう、桃、すももなどの出荷量はその代表としてあげられます。近年、シャインマスカットは世界中で注目されている品種であり、山梨の誇る一品です。また、去年は戦国武将、武田信玄の生誕500年にあたり、様々なイベントを通して、郷土の英雄、信玄公の魅力について再考する機会となりました。

在外教育施設への勤務は、今回で2度目となり、1999年から2002年までの3年間で、オーストリアのウィーン日本人学校で勤務しました。「音楽の都」と呼ばれるウィーンは街全体が、美術館であるかのような美しい街であり、騒音を嫌う静かな街でした。当時小学校2年生だった娘は、登校初日、学校と運転手との連絡ミスにより、帰りのスクールバス下車後に迷子になってしまいました。誰にも相談することができず、ランドセルを背負ったまま一人泣いている娘の姿を想像すると今でも心が痛みます。そんな娘を救ってくれたのは、国籍と言葉を超えた温かい心でした。現地の老人達が次々と娘を取り囲み、抱きかかえるようにして、バイリンガル(ドイツ語と日本語)の女性が勤める薬局へと誘導してくれたのです。あれから20年、娘は今、日本に住む外国人をサポートするための仕事に携わっています。

本校の新年度は教育目標「自ら未来を切り拓き、グローバル社会づくりに貢献できる子」を掲げ、4月9日より始まりました。入学式では、ヒューストン総領事、村林弘文様よりご祝辞をいただき、その中で「テキサスは今、アメリカで最も元気のある州です。そのパワフルな雰囲気の中で、思う存分挑戦してください。そして、今の苦労は必ず将来に生きます」との励ましの言葉をいただきました。

「出会いには必然」と言われます。日本から約1万km離れたヒューストンでの出会いには、一人ひとりにとって、必ず何らかの意味があることを信じ、私たち教職員は一丸となって、在籍生徒453名(4月1日現在)の成長をサポートする決意です。運営委員の皆様はもとより、保護者の皆様、関係者及び関係機関の全ての皆様方に、本校の教育活動へのご理解とご協力をお願い申し上げ、着任の挨拶とさせていただきます。



## 2022年度 ヒューストン日本語補習校

# 入園・入学式



村林総領事

4月9日、令和4年度第51回ヒューストン日本語補習校入園・入学式が補習校オーデトリウムにて執り行われました。ヒューストンの夏の始まりを告げるような雲一つない青空が、幼稚部49名、小学部52名、中学部20名、高等部10名の皆さんの門出を祝っている様でした。

来賓の村林総領事からは、補習校と現地校の両立は大変ではあるものの、今アメリカの中で一番元気で勢いのあるテキサスのこの補習校で是非、先生方や先輩方と一緒に有意義な学校生活を送っていただきたいと祝辞を頂きました。また、この4月よりヒューストン日本語補習校の新校長となった岡林校長先生からは、メジャー



岡林校長

リーグで活躍するエンジェルスの大谷選手に例え、日本とアメリカの言語と文化を兼ね備えたリアル二刀流として世界で活躍する人になってほしいとの期待と共に、生徒たちの成長を誠心誠意サポートしたいと決意を述べられていました。

入園・入学式は中学部・高等部、幼稚部、小学部の3部に分けて執り行われ、それぞれの式の雰囲気は違ったものの、これから学校生活を共にするクラスメイトを隣に、少し緊張しながらも期待に胸を膨らませている様子は皆さん同じでした。今年からはこれまでCOVID-19の影響により制限されてきた様々な行事が再開され、より充実した学校生活が送れるよう心より願っております。

(ヒューストン日本語補習校運営委員会)



小学部新入生代表



中学部在校生代表



中学部新入生代表